

## 研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	日本国内に移入される可能性のあるウイルスの高感度核酸検査法の開発 (感染症安全対策体制整備事業 輸血の安全性確保を目指した感染症安全対策体制構築のための研究)
研究開発期間 (西暦)	2018 年度 ～ 2028 年度
研究機関名	国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 次世代生物学的製剤研究センター
研究責任者職氏名	センター長 水上拓郎

## 研究の説明

- 研究の目的・意義・予測される研究の成果等  
近年、デング熱、ジカ熱、チクングニア熱、ウエストナイル熱など海外で発生した感染症が国内に移入される危険が高まって来ています。平成 26 年には、デングウイルスに国内で感染した患者が数多く認められました。症状のない感染者は健康であるため献血をすることが出来ます。  
献血血液の安全性を保つためには、これらの病原体が迅速かつ感度良く検出出来るように検査体制を整えることが必要で、平成 25 年 4 月から、新たな病原体が国内へ移入した場合に備えて、厚生労働省血液対策課、日本赤十字社、国立感染症研究所が連携して、感染症リスク管理体制の構築を行っています。この研究事業では、新たなリスクを早期に把握して評価を行い、血液の安全性を確保することを目的としています。  
新しい病原体が国内に移入した場合には、迅速に検出できるような体制を早期に構築することが出来るようになるため、血液の安全性が高まります。
- 使用する献血血液の種類・情報の項目  
献血血液等の種類：血漿（規格外）、検査残余血液（血漿）  
献血血液等の情報：なし
- 共同研究機関及びその研究責任者氏名  
《献血血液を使用する共同研究機関》  
日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所 谷 慶彦  
《献血血液を使用しない共同研究機関》  
なし
- 研究方法《献血血液の具体的な使用目的・使用方法含む》  
献血血液のヒト遺伝子解析：■行いません。 □行います。  
《研究方法》  
日本国内に移入される可能性のあるウイルスの高感度核酸検査法の開発を行います。献血血液を用いて、開発した新しい核酸検査法の有用性を評価し、モニタリングを実施します。
- 献血血液等の使用への同意の撤回について  
研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます
- 上記 5 を受け付ける方法  
「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

---

所属	国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 次世代生物学的製剤研究センター
担当者	水上 拓郎
電話	042-561-0771 (内 3002)
Mail	tmiz@niid.go.jp